

勝林寺蔵唐金の火鉢（伝・ジョン万次郎使用）

山本 泰秀

勝林寺に現存する唐金の火鉢は、故勝林寺二十四世（昭和五十一年七月示寂）が、戦後になり（昭和二十年八月十五日以後）ジョン万次郎の直系三代目にあたる孫の仲濱清氏に直接頂いたものである。太平洋戦争中の所謂学童疎開の折、勝林寺は、神田佐久間小学校の三年生・四年生の男子児童五十二名を預かった。付き添いは赤荻先生（女性）・男性の岡本先生と漆野先生と寮母であった。赤荻先生と寮母は本堂中二階を宿舎とし、児童は本堂を二部屋に仕切り、三年生・四年生と分かれてそれぞれ寝泊りをした。時同じくして漆野先生に連れられて仲濱博氏の弟の稔氏が勝林寺に疎開していた。漆野先生の名前は藤雄と言ひ、万次郎の曾孫の仲濱稔氏の家庭教師をしていた縁によるものであり、神田佐久間小学校の児童とは、別室（庫裏）で暮らしていたという。そのお札にというわけである。

この件に関しては、ジョン万次郎の著作を多数著わしておられる仲濱博氏（稔氏兄）からも平成二十年一月十日に直接私がお電話にて話を伺っている。

「弟が大変お世話になりました。戦時中、私、博も三回ほど、勝林寺を訪ねたことがあります。」

川《古利根川》がそばにあり、とてもきれいな寺だったと覚えている。

万次郎の物が数多く家に残されており、その中から寺に相応しいということで、父（清氏）が選んでお札に差し上げたのだと思う。」という内容である。この時の電話で私が神田佐久間小学校の学童疎開の話を書き記すこと。書き上げたらお届けする旨を話していたが、残念ながらこの電話から二ヶ月後の四月三日に博氏が逝去されたとの奥様からのお手紙であった。

その後、私は唐金の火鉢をあらためて、高岡市銅器展示館の竹中氏に鑑定を願った。竹中氏の鑑定結果をそのままここに記す。

・・・京都にて造られたものと思われる。年代は特定しかねるが、とても上等な作である。打ち出しではないものの、共耳と言ひ、火鉢本体を造る時、同時に取手をつけてある。このことからしても、値打ちのある良いものだ。歴史的見地からも、江戸時代からあるものの幕末の頃まで庶民の手には入らなかつた。・・・

*唐金Ⅱ青銅のこと。中国から製法が伝わったことからこう言う。

*唐金の火鉢Ⅱ宣徳（中国、明の宣宋の治世の年号：一四二六～一四三五）の世に造られた宣徳銅器の火鉢、またはそれに似せて造られた火鉢。日本でも二百年位前から、京都、大阪でも造っていた。

富山高岡市銅器展示館

館長 竹中氏鑑定

平成二十年三月五日

皆様もご存じかとは思いますが、「アメリカ」を初めて伝えた日本人という二千二十七年に生誕二百年を迎えるジョン万次郎のことを書き記したいと思う。

*ジョン万次郎 文政十年（1827）一月一日（一月二十三日）に土佐の中ノ浜、今の高知県土佐清水市中浜で漁師の悦助と母「志を」の次男として生まれた仲濱万次郎のことである。万次郎が九歳の時父が突然病死。漁師になると宣言し、隣の漁村で船頭筆之丞のもと初漁に天保十二年一月五日（1841年一月二十七日）に筆之丞・五右衛門・重助三兄弟と寅右衛門の五人で出た。三日後に漂流する運命の船出であった。万次郎十四歳の時である。出漁二日程、はえ縄をしていたが強風により小舟は流され始めた。漂流がはじまり、天保十二年一月十三日（1841年二月四日）鳥島に漂着。五人による洞穴での長い無人島生活が始まる。五月九日アメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助される迄の百四十三日である。その後五か月余り捕鯨を続けホノルルに寄港。この地で日本への帰国を待つ様に捕鯨船船長がとりはからうも、万次郎は四人と分かれて、進んで未知の国アメリカ行きを選んだ。

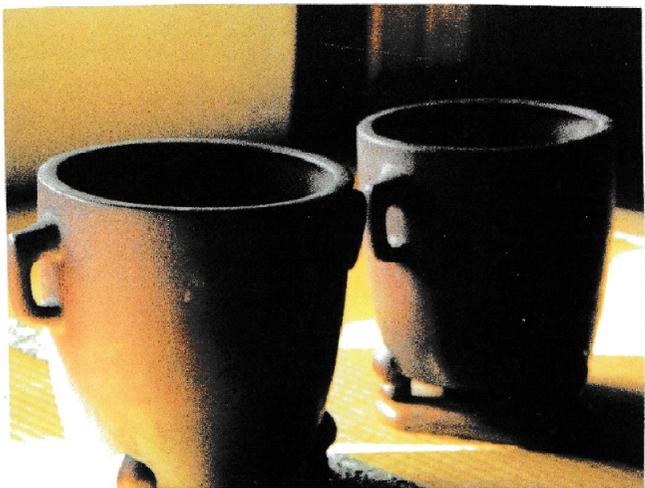
1843年五月七日、はじめてアメリカの土を踏んだ。ホイットフィールド船長の計らいで、万次郎はフェアハーブンの学校で教育を受け、さらに高等教育をうけた。その後さらに別の捕鯨船に乗り航海に出た。その間に一等航海士にもなった。

1851年八月二十七日（嘉永四年八月一日）に鹿児島着。1851年十月二十三日長崎奉行の取り調べを受け、翌年長崎を出発し、やっと1852年二月十六日に中ノ浜に帰着、母親と対面した。土佐藩に登用され、武士となり幕府直参にもなり仲濱の姓を名乗り、幕府にて活躍。

1860年二月十日、万次郎は咸臨丸にて浦賀出港し、サンフランシスコに向かう。その後も小笠原島の開拓調査などを行う。江戸城開城により江戸を東京と改めた明治新政府より開成学校教授に任命され、教育現場にても活躍した。ヨーロッパ出張の折、世話になったホイットフィールド船長を訪問し、神戸港に帰国。最後まで船を愛した。

1898年（明治三年）二月十二日脳溢血にて逝去。七十一歳であった。

勝林寺蔵唐金の火鉢（伝ジョン万次郎使用）



高さ：28.9 cm、幅：25.8 cm、重さ：122 kg(灰を含む)

*仲濱 博氏 一九二八（昭和三年）
東京生まれ。万次郎直系四代目。
学習院高等科卒業。名古屋大学卒業。
マドリード大学院外科学専攻。医学博士。
スペイン医学博士。
聖母病院、東京厚生年金病院外科勤務。
名古屋聖霊病院院長。
老人施設「和合の里」施設長など歴任。
万次郎に関する著書多数発行。

〔参考文献〕

中濱 博 著 「中濱万次郎」
発行：富山房インターナショナル